

金山城(太田金山城, 新田金山城)(国の史跡, 百名城)

(太田市金山町 40-98, 長手町, 東金井町)(新田神社など)

新田金山城(にったかなやまじょう)は、群馬県太田市のほぼ中央にそびえる標高 235.8 メートルの独立峰、全山アカマツに覆われた金山に築かれた日本の城(山城)である。別名「太田金山城」、「金山城」。

立地・遺構

金山の頂上にある山城であり、現在は、本丸跡とされている地点に新田神社がある。背後の斜面には石垣の一部が遺存しており、往時のようすを現在に伝える。関東平野を一望に収めることができ、西方は一段低くなっており「日ノ池」「月ノ池」がある。西南には二の丸跡、三の丸跡と呼ばれる曲輪が残り、これら曲輪につながる尾根群には堀切が設けられている。また南曲輪には中島飛行機の創設者である中島知久平の胸像が建てられている。

歴史・沿革

室町時代以前

- 1336 年(建武 3 年)に佐野義綱が新田庄の新田城を攻め落としたという記録がある。この新田城が新田義貞によって金山に建築されていたのではという説があるが、最近行われている発掘調査ではその時代の遺構や遺物は検出されていない。ただし城郭遺構の保護との兼ね合いのために万全な調査ができていないという一面もある。

室町時代・安土桃山時代

- 1469 年(文明元年) 新田一族であった岩松家純によって築城される。以降、1528 年(享禄元年)に由良成繁・国繁親子、1584 年(天正 12 年)には北条氏と主は変わったが、上杉謙信の攻撃を退けるなど、関東七名城の一つとされる。
- 1590 年(天正 18 年) 豊臣秀吉の小田原征伐の際攻撃を受けて落城、こののち廃城となった。

近現代

- 1934 年(昭和 9 年)12 月 28 日に「金山城跡」(かなやまじょうあと)として国の史跡に指定された。現在は、いくつかの遺構をもとに、公園として整備されている。
- 2006 年(平成 18 年)4 月 6 日、日本 100 名城(17 番)に選定された。
- 2009 年(平成 21 年)5 月 30 日、史跡金山城跡ガイダンス施設・太田市金山地域交流センターが開館。

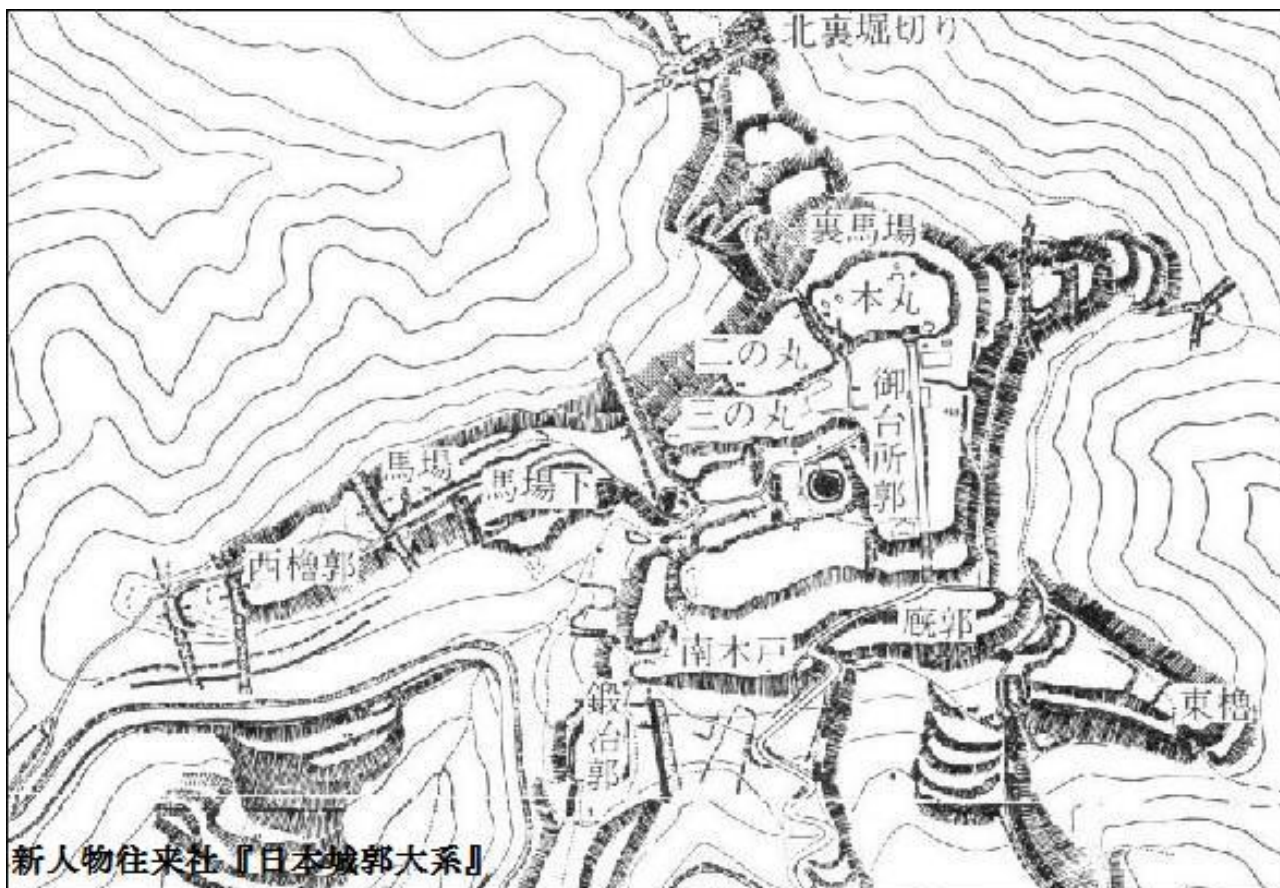
Wikipedia による



月ノ池と大手虎口



物見台下虎口



新人物往来社『日本城郭大系』

